

# アナリティクスと アプリケーションをクラウドで モダナイズしてDXを推進する方法

## メリット

- ・ 短期間で価値を発揮、コストを最適化、TCOを削減
- ・ ROIを迅速に達成
- ・ ビジネスの俊敏性を促進
- ・ 将来にわたり投資を保護
- ・ クラウドならではの規模と俊敏性を最大活用して、あらゆるエンタープライズニーズに対応
- ・ すぐに使用を開始し、データを実践的に活用するすべての人々のためのセルフサービスツールで生産性を向上

## データウェアハウス、データレイク、アプリケーションのモダナイゼーションのROIを早期に実現する

今日のCDO（最高デジタル責任者）にとって、デジタルビジネスはもはや希望ではなく、必須不可欠な存在になっています。近年におけるビジネス/テクノロジー環境の大きな変化は、破壊的変革が誰もが予想していたよりも早く訪れることを示しています。もう時間的な余裕はなくなりつつあり、今すぐモダナイゼーション（最新化）を進める必要があります。

俊敏性、柔軟性、コスト削減、拡張性を実現するために、多くの企業がオンプレミスのデータウェアハウス/データレイク（Teradata、Netezzaなど）とレガシーアプリケーション（Seibel CRM、PeopleSoft HRMSなど）をクラウドに移行してモダナイズしたり統合したりしています。さらに、Salesforce、Workday、Adobe、Snowflake、Amazon Web Services、Microsoft Azure、Google Cloudなどの新しいテクノロジーに投資して、成功を後押ししています。どうすれば、より迅速かつコスト効率良く成功させることができるのでしょうか？

そのためには、さまざまな課題を克服しなければなりません。増加し続けるデータ、アプリケーション統合/データ品質/データガバナンス/運用化の欠如、手作業によるデータパイプラインの保守、急速に変化するテクノロジーへの対応、リソースの不足などによりコストと複雑性が増大し、成功を阻む障害となります。

実際、アプリケーションモダナイゼーションイニシアチブの74%<sup>1</sup>およびデータサイエンスイニシアチブの87%<sup>2</sup>は失敗に終わっています。Boston Consulting Group社によると、デジタルトランスフォーメーションを推進する企業の70%は、目標を達成できずに終わることになります。<sup>3</sup>

これらの課題を克服するには、インテリジェントかつ自動化されたクラウドモダナイゼーションアプローチを通じて、開発期間を短縮して、ROIを向上させる必要があります。

<sup>1</sup> Advanced Global Research社2020年

<sup>2</sup> VentureBeat社『Why do 87% of data science projects never make it into production?』2019年

<sup>3</sup> Boston Consulting Group社『Flipping the Odds of Digital Transformation Success』2020年

## よくあるミス回避

モダナイゼーションは複雑になることもあります。しかし、モダナイゼーションに伴う困難の多くは回避可能な一般的なミスに分類することができます。

**複数のポイントソリューション**を使用すると、コストと複雑性が増大します。エンドツーエンドの包括的なプラットフォームがない環境では、連携性に乏しいツールをつなぎ合わせるしかありません。手作業による統合、ロードマップの変更、プロジェクトのスケジュール超過、整合性のないデータガバナンス/データ品質などに常に振り回されることになるでしょう。

**手動アプローチ** (手作業によるコーディングやAPIなど) は、開発/保守コストが高く、スキルを持つ開発者を必要とし、再利用性に欠けます。手動のアプローチでは、貴重なITリソースは、企業に価値をもたらす戦略的ITイニシアチブではなく、保守と運用に時間を費やすことになります。また、テクノロジーやプラットフォームに変更があるたびに、再コーディング、再テスト、再導入が必要になるため、俊敏性が損なわれることになります。

新しいアプリケーションに投資する企業やオンプレミスのレガシーアプリケーションの製品寿命を引き延ばそうとする企業の多くが、**APIオンリーのアプローチ**を採用しています。しかし、このような企業は、アプリケーション間の連携の必要性を見過ごしています。環境に新しいアプリケーションを追加したら、サイロ化しないように拡張、接続、統合しなければなりません。APIは便利ですが、あくまでもその場しのぎの処置であり、長期的な拡張には不向きです。

PaaSベンダーやIaaSベンダーが提供する**制限のあるツール**を使用して、基本的な統合や取り込みを実行することは可能です。しかし、通常これらのツールは手作業による開発が必要で、機能も各ベンダーのプラットフォームでしか使用できないため、マルチクラウド環境では非常に大きな制約を受けることになります。さらに、データ品質やデータガバナンスなどの機能が統合されていないため、信頼できるデータに基づいて業務上の意思決定を改善できません。

## クラウドモダナイゼーション戦略を成功に導くための主要機能

クラウドデータウェアハウス、データレイク、アプリケーションに対する投資から最大限の価値を引き出すためには、明確なクラウドモダナイゼーション戦略が必要です。クラウドモダナイゼーションは旅のようなものです。そして、旅の目的地に到着するためには、出発地点がどこであれ、いくつかの主要機能が必要です。

モダナイゼーションに伴う課題を克服するには、統合され、包括的で、エンタープライズ規模かつクラウドネイティブなデータ統合、アプリケーション/API統合が必要です。また、以下を支援するデータ管理パートナーも必要となります。

- AIとアナリティクスのためのエンドツーエンドのデータパイプラインを迅速に開発して運用化する
- 高速、シンプル、インテリジェントなツールを使用して、多数のレガシーアプリケーションとSaaSアプリケーション (Salesforce、Workdayなど) を接続する
- 柔軟な従量課金制を採用して、新しい重要な機能を迅速にオンボーディングする
- 任意のマルチクラウドプラットフォームおよびテクノロジー (AWS、Azure、Google、Snowflake、Databricks、Adobeなど) を使用する
- 自己学習/自己最適化システムを使用して、迅速に拡張する

- ・将来にわたり活用できるエンドツーエンドのクラウドネイティブプラットフォームで新しいユースケースに対応する
- ・より少ないリソースと予算で、より多くの成果を達成し、インテリジェンスと自動化機能を用いて、データを実践的に活用する人々の生産性を高める

## クラウドモダナイゼーションを成功に導くための3つの原則

Informatica® Cloud Modernization Solutionは、企業を成功に導くための3つの条件（簡索性、生産性、拡張性）を満たしています。

### 簡索性

- ・データエンジニア、一般の統合担当者、データサイエンティスト、開発者など、すべてのユーザーが使用できる、コーディング不要の目的特化型のツールおよび体験
- ・データ統合、データ品質、アプリケーション/API統合、プロセス統合のすべてを備えたひとつのプラットフォーム
- ・データ管理ニーズの変化に簡単かつ迅速に対応できる、シンプル、最新、柔軟な従量課金制
- ・クラスタやソフトウェアの管理が不要の完全管理型スケールアウト環境でインフラストラクチャコストを削減

### 生産性

- ・インテリジェンスと自動化により、データを実践的に活用するすべてのユーザーの生産性を高めて、開発コストを削減
- ・AIを活用したインテリジェントな自動化機能と提案により、開発、運用化、拡張、チューニングを高速化
- ・ドメインディスカバリとビジネスコンテキストに基づく自動データ品質ルールにより、信頼できるデータを業務部門に提供
- ・デバッグ/テスト機能があらかじめ組み込まれた、ウィザードベースのセルフサービスビルダー、クラウドネイティブのデザイナー、データ探索中心のマーケットプレイス、ビジネス相互運用性ポータル
- ・クラウド、オンプレミス、SaaSに対応する10,000以上の高性能、メタデータ認識型コネクタ

### 拡張性

- ・テレメトリデータを活用して最適なパフォーマンスを提供する自己学習/自己最適化プラットフォーム
- ・目的特化型ツール、ビジネス/データAPI、マルチレイテンシの大量取り込み、高度なプッシュダウン最適化、柔軟性に優れたSparkベースのサーバーレス高速処理、低コストのデータ処理/データ入力/データ出力
- ・包括的でクラウドネイティブな単一のプラットフォーム、グローバルPOD、信頼性認定
- ・企業のあらゆるマルチクラウド需要に対応できる柔軟な拡張性（AWS、Azure、Google、Snowflakeなど）

## インフォマティカについて

デジタルトランスフォーメーションによって我々の期待値が変化しています。より良いサービスを、素早く、便利に、低コストで利用したいという期待が高まっているのです。企業も状況に応じて変化する必要があります。そしてそのヒントは「データ」にあります。

エンタープライズ向けクラウドデータ管理で世界をリードするインフォマティカは、俊敏性の向上、新たな成長機会の獲得、新しいソリューションの開発を実現するための洞察を通じて、あらゆる産業や分野の企業がインテリジェントにビジネスをリードできるよう支援します。インフォマティカは、あらゆるデータを徹底的に重視し、企業の成功に必要なとされる汎用性を提供します。

インフォマティカは、企業がこれからのインテリジェントな破壊的イノベーションを推進できるよう、当社が提供するあらゆるサービスを通じてデータの力を継続的に引き出すことを支援します。

## インフォマティカのアプローチの利点

クラウドネイティブ、マイクロサービスベース、API主導、AI搭載のインテリジェントデータプラットフォームにより、開発期間の短縮とROIの向上が実現します。また、成功に必要な簡素性、生産性、拡張性も獲得できます。その結果、次のことが実現します。

- **開発期間を短縮して、コストを最適化し、TCOを削減。** 包括的に統合されたインテリジェントなクラウドネイティブソリューションを通じてクラウドでモダナイズできます。さらに、クラスタの自動拡張／調整により、動的なワークロードに対応して、予算超過を回避できます。
- **迅速なROIを実現。** すべてのデータとアプリケーションに接続できる、高パフォーマンスの統合により、データウェアハウス、データレイク、アプリケーションのクラウド移行／モダナイゼーションプロジェクトをスケジュールに沿って成功裏に完了できます。
- **ビジネスの俊敏性を促進。** 信頼できるデータへのアクセスを社内すべてのユーザーに提供して、戦略的ビジネスイニシアチブを推進し、価値を創出できます。また、業務上の意思決定の質とスピードを高めて、業務成果を改善できます。
- **将来にわたり投資を保護。** ビジネスニーズやテクノロジー（Amazon Web Services、Microsoft Azure、Google Cloud Platform、Snowflake、Databricks Delta Lakeなどのクラウドプラットフォームを含む）の変化に応じて重要な機能を迅速にオンボーディングできます。
- **クラウドならではの規模と俊敏性を最大活用して、あらゆるエンタープライズニーズに対応。** ジョブの迅速な実装、最小限のインストールとセットアップ、自動アップグレード、データの迅速なオンボーディング、可用性とセキュリティに優れた統合ソリューションにより、マルチクラウド環境にわたる拡張を可能にし、アナリティクスとアプリケーションに関するすべてのユースケースに対応できます。
- **すぐに使い始めることができ、あらゆるレベルのユーザーをサポートするセルフサービスツールで生産性の向上を実現。** 数百ものデータソースへすぐに接続できる機能を活用して、高度なトレーニングの必要なしに短期間で実装して稼働させることができます。さらに、コーディング不要の視覚的な開発環境、あらかじめ組み込まれた複雑なトランスフォーメーション、インテリジェンス、自動化機能も活用することができます。

## 今後のステップ

インフォマティカのクラウドモダナイゼーションソリューションの詳細は、[こちら](#)をご覧ください。



〒105-6226

東京都港区愛宕2-5-1 愛宕グリーンヒルズMORIタワー26階 電話：03-6403-7600（代表）FAX：03-3433-1021

IN08\_0321\_04102

© Copyright Informatica LLC 2021. Informatica、Informaticaロゴは、米国およびその他の国におけるInformatica LLCの商標または登録商標です。インフォマティカの商標の最新版は、<https://www.informatica.com/jp/trademarks.html>をご覧ください。その他すべての企業名および製品名は、各社が所有する商号または商標です。本文書に記載されている情報は、予告なく変更されることがあり、現状のまま提供され、明示または黙示を問わず一切の保証を伴いません。